

かわらばん

妻入り

事務局

新潟県出雲崎町

教育委員会

☎0258-78-2250

FAX 78-4559

推進協議会総会開催

出雲崎妻入りの街並み景観推進

協議会の総会を六月十四日に開催

し、前年度事業報告及び決算報告、

今年度事業報告及び予算、役員に

ついて承認及び決定をいただきました。

した。

前年度は、12軒の町屋を会場と

して「街並ギャラリー」を開催、

街並ギャラリーを見学しながら歩

いた「歴史の道ウォーク」、「空家・

空地調査」などを行いました。

今年度の各グループの事業計画は、次のとおりです。

Aグループ

○空家・空地情報連絡調査

昨年、八年振りに、全町の調査を実施しました。その結果、空地・空家が増えていたので、引き続き、その後の状況を把握していきたいと思っています。

○先進地視察

街並みがきれいに整備されているところや、地域づくりや、街の活性化に熱心に取組んでいる所を視察に行きたいと思っています。

Bグループ

○おもしろ看板の設置

出雲崎の昔話を看板にし、地域の皆さんはもとより、散策に訪れた方々から楽しく『妻入りの街並み』を歩いていただける様にと今年度も看板を製作し設置する予定でいます。皆さんの知っている地域の昔話がありましたら、情報をお寄せください。また、看板の設置場所を提供いただける方も合わせてお知らせくださいます様、お願いいたします。

かわらばんグループ

○かわらばんの発行

かわらばん「妻入り」を年間三

回発行（四・八・一月）

○歴史の道ウォーク

教育委員会との共催で今年も十月七日に行います。

○街並みギャラリーの開催

いくつかの民家を借りて（十月七日から九日）にすばらしい絵の展示を致します。

No	住所	氏名	備考
1	尼瀬	広瀬 真弘	地区推薦
2	尼瀬	小町 フミ	地区推薦
3	尼瀬	小林 洋子	地区推薦
4	尼瀬	岡田 幹與	地区推薦
5	尼瀬	佐藤 昇	地区推薦
6	尼瀬	池田 久雄	地区推薦
7	尼瀬	細木 吉代	地区推薦
8	尼瀬	小田島 正好	地区推薦
9	尼瀬	武士俣 武	地区推薦
10	石井町	関根 一祥	副会長
11	羽黒町	旭 忠麿	地区推薦
12	羽黒町	佐々木 貞治	地区推薦
13	羽黒町	遠藤 良法	地区推薦
14	鳴滝町	仙海 智子	地区推薦
15	鳴滝町	山田 奈緒美	地区推薦
16	住吉町	磯野 猛	
17	羽黒町	曾根 良子	
18	別ヶ谷	大谷 茂	監事
19	川西	小黑 博泰	
20	石井町	磯木 ヨシエ	
21	尼瀬	加藤 高康	
22	木折町	内藤 実	
23	大門	磯部 友記雄	
24	木折町	長谷川 隆	
25	井鼻	渡辺 常侃	会長
26	住吉町	村越 隆夫	副会長
27	石井町	納谷 稔	
28	木折町	石井 弘	
29	羽黒町	高坂 一弘	
30	井鼻	松永 信義	会計
31	鳴滝町	小林 等	監事
32	尼瀬	小田野 一男	
33	乙茂	松永 透	

子供の頃を思い出しながら

出雲崎町教育委員会

教育長 佐藤 亨

海岸育ちで、子供の頃から見慣れた街並も随分変化してきました。現在は、妻入り様式そのままの家や今風を基調とした家などが見られます。子供の頃は妻入りという言葉も耳にせず、ただ同様な家が多く立ち並び、自宅から離れた友人宅に行く時など、ハテナと思いつつ家に入った覚えがあります。

今一つ子供心に感じていたことは、隣り同士の家が極めて接し合っているわりに、家に入ってみると明るく、又、広さをも感じ取ったことです。そして、明かり取りの天窓が私の知る家々にはあって、しかも工夫されていたと知ったのは暫くしてのことでした。又、当然ながら、天井から明かりを取る天窓ですから、高さが部屋をより一層広く感じさせたのでしょう。

住宅建築はいつの世もその土地

土地の状況、環境に見合った、そして、その時代の粋を結集した工夫の連続であると思います。その工夫を自分なりに味わい、その中から生活の知恵を学び取れたら最高です。出雲崎には至る所にそのことを満たしてくれる場所が今尚あります。

今年の春、街を探索中の東京から見えた中年のご夫婦が我が家にも立ち寄られました。おけさに関する話をしたりし、しばらく時間が過ぎました。出雲崎の街並の話となりご夫婦には大層お気に入りとなりました。時間的空間を感じさせる街並の落ち着き、自然がもたらすどつしりとした光景等好感を持たれておりました。

街並景観推進の方々のご尽力で街並も注目されております。光を放つ部分がさらに広がるよう気持ちを高め合ってまいりたいと考えます。



「妻入り」と

「夕日」と「人情」と

出雲崎中学校

校長 相川 良和

幼い頃祖母に連れられて、初めて出雲崎を訪れた。

当時の出雲崎は、海岸には道路がなく、舗装されていない道の両脇に細長い家並みが続いていた。その道を歩いていると、どこからか浜焼きの匂いが漂っていた。そ

して、妻入りの家並みの間から見える砂浜の向こうの海が夕日に赤く染まっていたことを思い出す。

次に、出雲崎を訪れたのは、今から二十年ほど前である。夏の夕方になると、まだ小さかった長男を連れて海水浴をするために時々出雲崎を訪れた。その頃になると、海岸道路もでき、最初に訪れたときの印象と違って戸惑ったものである。そんなある日、昔の思

い出を辿って、旧道に入ってみた。広いと思っていた道は、思いのほか狭かった。しかし、規則正しく屋根の並んだ家並みはそのままであつた。懐かしくなつて、ゆつくりと自動車を走らせる。一軒一軒の家が長く海岸まで、家々の間から昔と同じように海を赤く染めた夕日が見えた。

そして、今年出雲崎に赴任した。六月のある晴れた夕方、井鼻から尼瀬まで歩いてみた。今風の家屋が所々目に付く。しかし、夕日に照らされた旧道の両側に続く妻入りの家並みは、昔の漁師町の面影を色濃く残していた。

石井町の辺りに来ると、路地から年配の女性が手に皿を持って現れ、ある家に入つて行った。きつと家で作つた料理を、近所に持ってきたのだらう。街並みは、少しずつ変わっていくが、温かな人の心は変わつてはいない。妻入りの家並みに、皿を手にした年配の女性の姿が似合つていた。

形として残る妻入りの家並み。人の心に受け継がれる人情。この二つの伝統は、出雲崎の教育の基盤として欠かせないものである。

出雲崎に赴任して

県立出雲崎高等学校

校長 山本 ヒサ

毎朝緑の山間の道を風景に癒されながら通勤しています。長岡の川西に住んでいますので通勤時間が約三〇分で、気持ちを仕事モードに切り替えるにはちょうどいい時間です。道路がくねっているので、ほどほどの速度でゆつたり走ります。

海や山の自然が豊かで、歴史的な風情のある出雲崎町には至る所癒しがあり、当地に関われたことは、仕事上とはいえ、何よりの幸せと感謝しています。西越高校が学校改組して出雲崎高校になりました。西越高校のときは、学校の所在地がどこにあるのか分かりませんでした。出雲崎高校は地名が

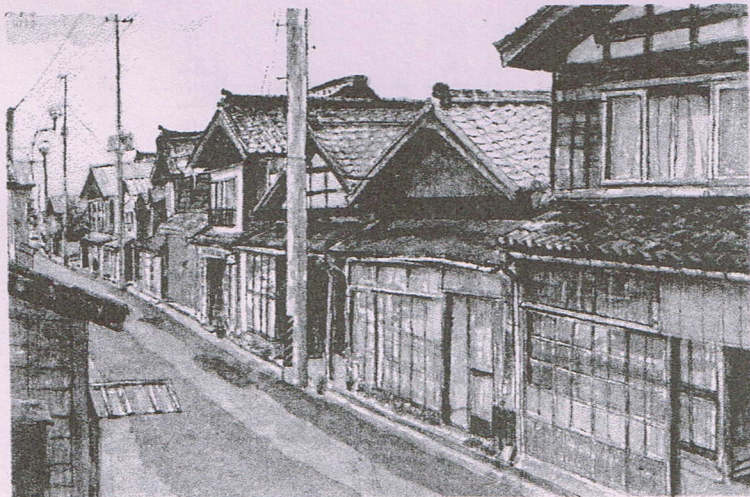
良寛の生誕地で有名なため分かります。本校に着任して、西越高校が昭和二十三年に当時としては珍しい村立の学校で、三島郡西越村立「新潟県西越高等学校」として設立されたこと、その後、昭和三十二年の町村合併で出雲崎町となったことを知りました。

ところで、雨模様の日でしたが、あらためて井鼻から入って尼瀬までの妻入りの街並を車でゆつくり通り抜けました。それまでは町の貴重な財産とは知らず、不思議な空間という程度の認識でした。

外壁がカラフルな新建材の家を見慣れた目には、落ち着いた木の温もりが優しくしっとり映りました。また、そこだけ時間が停止したような感覚になりました。

住まいの洋風化、バリアフリー化が進んでいる中で、伝統的な住まいと現代の暮らしとの調和が、室内でどのようになされているのか知りたいところです。

許す限り、海の幸を堪能したり、山や名所旧跡を散策したり、良寛の書物や作品などをおして、ますます町を好きになっていけたらいいなと考えています。



妻入りの街（二十八）

住吉町

磯野 猛

人物往来（十三）

明治期から昭和にかけて出雲崎へやって来た中央文人は数多く、画家、歌人、俳人が目立ちます。大正十一年、良寛堂が建立され、その式典に招かれた津田青楓（つだせいふう）という画家がおります。当時の青楓は洋画家として、夏目漱石の作品の装丁などもやり、新進の画家として東京では時代の先端を行く作家でした。師として仰ぐ夏目漱石は、良寛の書作品に大きな関心をもち、津田青楓にも良寛について勉強をすすめていたといわれております。尼瀬町の熊木旅館に宿泊した青楓は良寛堂建立式典に参加した夜、旅館に戻ると熊木家の娘で、家業を手伝っていた尚子さんの容貌に惹かれ、是非絵を描きたいと本人に申しこみました。娘さんは東京の一流の洋画家といえども、全裸のモデルですから断りました。でもどうして

も作品にしたい青楓は保護者でもあった叔母さんに幾度も頼みました。



この宿の娘のうたふ枯尾花

雨の降る日はわけてもわびし

秋雨の降る日は見えづ

佐渡ヶ島

ありその上をかもめとぶなり

家族一同の許可を得た青楓は、一旦東京へ帰り、絵画の用具をもって出雲崎へ来ました。

熊木旅館へ落着いた青楓は早速この娘さんを描きはじめました。

八十号の大作です。大正十二年の洋画、二科展に出品するためのものでした。窓から佐渡ヶ島が見える部屋のソファに横たわる裸婦像でした。

この大作を仕上げるために青楓は熊木旅館に長期滞在しました。この間に良寛の遺跡をめぐる。この時期津田青楓の作った歌が二首あります。

そして、同じ熊木家へ訪ねていた相馬御風との合作の作品も残されております。

この絵は大正十二年九月一日からの上野の美術館に展示されました。題して「出雲崎の女」でした。しかし大正十二年九月一日の開館日あの関東大震災で一般には公開されることなく絵は津田青楓のもとに帰されました。

この絵は現在青楓の寄贈により国立近代美術館に収蔵されております。

おもしろ看板紹介

「名主の家は千畳敷」

江戸時代の出雲崎町は、幕府の天領地（直轄領）となりました。そして天領代官所が設立され越後の行政の中心地として幕府の法令示達の拠点となりました。元和二年（一六一六）のことです。代官はこの町を二つに分け、それぞれに名主を置き、蒲原、刈羽、三島、魚沼の各村々の庄屋、村役人を支配しました。

尼瀬町と出雲崎町では、「京屋」と「橘屋」が両町の名主となりました。この名主は、佐渡奉行の交替や、巡見使の来町の時は、本陣として巡見使や佐渡奉行の宿泊などの仕事もありました。一般的な名主、庄屋は五十戸ほどの村々の支配者で、六万数千石を支配した出雲崎町、尼瀬町の名主とは桁外れの差がありました。

この尼瀬町の名主、「京屋」が火災で尼瀬地区が三百戸ほど焼失し

た記録があります。

寛政十一年（一七九九）九月二十六日尼瀬町の上はづれより養泉寺小路まで焼けたという文書があります。この火災文書は万因寺、善勝寺、禅光照寺の三ヶ寺の記録で、それぞれ年号が寛政十年、十一年、十二年の記録になっています。この時期江戸から出雲崎へ来ていた新楽間叟（にいらかんそう）という人が江戸の友人に書き送った文書があります。

寛政九年出雲崎へ来ていた間叟は十年、十一年そして十二年ころまで滞在していたと考えられます。その中にこの尼瀬の大火の記事があります。

九月二十七日出雲崎失火、近焼三百余家、（妓楼より十町ばかり上の方なり、商売廻船問屋などやけたり）、火とどまりて後のかたづけ、竹木石のはこび人足等皆女なり、……云々とあり、更に尼瀬町の名主「京屋」野口七左衛門類焼、急火なれども、畳を出せ

しこと七百畳ほど也、残りは皆焼けたり、これにて家作の大なるうを知るべし……そして、年に一度づつ佐渡奉行の渡りあり、それより外に用なき身分なるに、家内上下七人の住居にて畳千畳もしかる家をもちおるなり。

名主の家は、十万石の大名の屋敷ほどあり、家も庭も清潔で、庭石も諸国から取り寄せ、北海道の珍しいものが多くあることなど誌されております。

このような名主、町年寄などは巡見使の来た時など、本陣として使われたものですから大きな家を作っていたわけです。出雲崎、尼瀬は行政区分上別々でしたが、佐渡奉行や巡見使などに使われた家が三軒ありました。「橘屋」「敦賀屋」「京屋」が文書として残されており、この時は公式名称で出雲崎町とされております。尼瀬の大火は多分寛政十一年が正しいと思われる。今から二百六十年ほど前のことです。

出雲崎よもやま話

名主の家は千畳敷

寛政十一年九月、出雲崎町は大火で多くの家が焼失した。そのうち江戸の元代人で文才のあった「新楽間叟」という人が書き送ったものの中にこの火災のことが記されている。それによると、わけでも尼瀬町の名主の家は土蔵を残し全焼した。町の人たちはもちろん、近隣の村から大勢の人たちが駆けつけ、この名主の家の焼失も運び出した。出された畳の枚数は七千枚ほどで、残りの三百枚は間に合わなかったという。当時の名主の暮らしは十数万石の大名と肩を並べたものであったと記されている。これは佐渡奉行の巡見や、幕府の代官に接した名主の地位を物語る。尼瀬町の名主の家は、佐渡奉行の来町をうけ、本陣として名主の家の敷地敷はおよそ二町である。



妻入りの街並景観推進協議会

☆おもしろ看板

「名主の家は千畳敷」設置場所伊勢町の桑原さん宅前に設置してあります。ぜひご覧ください。

※おもしろ看板は、街並の景観保全と併せて街並を歩いていて楽しくなるように、景観だけでなくいろいろな観点から街並を考えようと計画されました。

歴史の道ウォーク開催します！

北國街道

歴史の道ウォーク

参加者募集

風情のある街並、出雲崎の歴史の話を聞きながら、歴史の道を歩いてみませんか。

同時に開催している街並ギャラリーも併せて鑑賞しながらのウォーキングになります。

出雲崎を再発見できる、健康的に歩くことができる、街並スケッチも鑑賞できる、盛りだくさんの内容となっています。この機会に家族や友達で思い出を作りに参加してみませんか。

開催日は、十月七日（土）を予定しています。時間やコースなど詳細につきましては、後日案内いたします。

出雲崎の街並を散策する歴史の道ウォークをお楽しみに！

○参加費は無料です。

○総合大学の学生の方は、学生証をお持ちください。

○ウォーキングですので、動きやすい服装で楽しんでください。

○タオル、飲み物なども忘れずにお持ちください。

街並ギャラリー

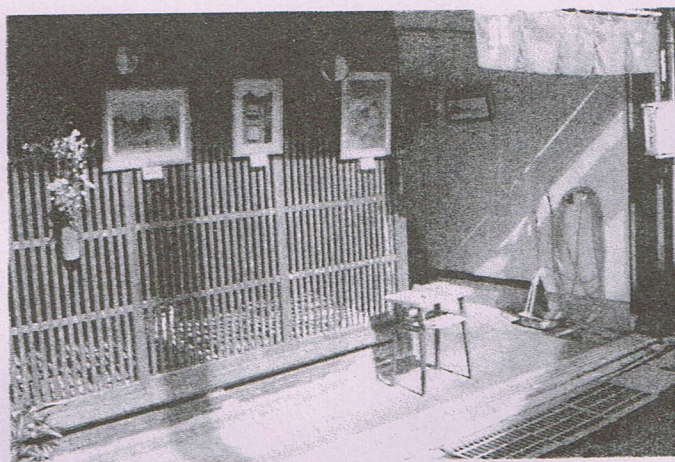
十月七日から九日開催予定

今年も、東京藝術大学大学院生が出雲崎に来町され、街並をスケッチしていただきました。芸大大学院生の街並スケッチ画も二七四点になりました。そのスケッチ画を妻入りの町屋で展示する街並ギャラリーを今年も開催します。

昨年も多くの方々が来町おいでいただき「来年も来るのが楽しみです」「出雲崎の街並が大好きです」など好評のうちに開催することができました。

三回目の今年は、十月七日（土）から九日（月・祝）の三日間開催

を予定しています。昨年以上の素晴らしい「街並ギャラリー」を開催したいと考えています。ぜひ、皆さんこの機会に、街並散策と街並スケッチ画を鑑賞してください。



あとがき
今年度もあとがきを担当することになりました。よろしくお願ひ致します。

昨年もこのコーナーで紹介した

熱帯夜での快適な睡眠方法をもう一度伝授いたします。クーラーを長時間使用すると喉を痛めたり、風邪をひいたりします。そこで、氷枕を使えば快適に睡眠できます。自分自身で実験済みですので、たぶん良く眠れると思います。氷枕にタオルを巻くのを忘れなく。

また、小さなお子様の昼寝にも使用すると良いと思います。

石井町 納谷 稔

ご意見ご感想

募集しています！

妻入りの街並景観推進協議会では、皆様からのご意見やご感想、何でも結構ですので、ご寄稿をお待ちしております。

送付先は、次のとおりです。

〒949-1434

新潟県三島郡出雲崎町

米田二八一番地一

出雲崎町教育委員会まで